

4月

世田谷区社会福祉協議会
●支えあい●心をつなく●合い言葉●

地区活動団体 & 地区内通信

太子堂地区通信

R2年4月号 太子堂社会福祉協議会事務局

福祉学習実施報告

2月に 中里小学校 4年生児童に対して福祉学習を行いました。

点字学習と白杖・アイマスク体験を通して、視覚障害の方への理解を深めてもらうことができました。当日は、点字ボランティア出口さん、地域福祉推進員のみなさんのご協力をいただきました。

世田谷区立 中里小学校

実施日：令和2年2月26日(水) 2・3時間目

内容：点字体験、白杖・アイマスク体験

対象：小学4年生 児童 30名



【点字学習】

長年点字ボランティアをされている出口さんが、お話しくださいました。出口さんが手にしている絵本には、点字が貼られています。点字を指でなぞることで読むことができます。「目の不自由な人たちも、みなさんと同じように日常生活を送っています。目が見えないことが、みなさんと違うだけなんです。」

説明の後は、実際に点字器で自分の名前を打つ体験です。点字表で、自分の文字を探しながらの作業です。推進員のみなさんも熱心にかつ楽しんで、サポートしてくださいました。





【白杖・アイマスク体験】

介助する立場とアイマスクをして歩く立場の両方の体験をしてもらいました。実際に体験をすることが、考えるきっかけとなります。



【感想】 終了後、子ども達からたくさんの感想をいただきました。

「点字で名前を打てて面白かった。」
「たくさんの点字グッズを知ることができた。」
「目が見えないと、歩くのが怖かった。特に階段が怖かった。」
「上手に声かけすることが大変。目が見えないのは大変だと感じた。」
担任の先生から「本からの知識だけでなく、実際に体験することができてよかった。これからは街の見方が変わると思う。」というお声もありました。

点字講師を引き受けてくださった出口さん、サポートしてくださった推進員のみなさん、ありがとうございました。



番外編



【サバイバルキャンプ】

夏休み恒例の太子堂サバイバルキャンプでの要救護者救助訓練の様子です。災害時、地域の様々な方が避難所に避難してくることを想定しながら、アイマスク体験と車椅子体験を行ない、障害のある方への理解を深めています。

世田谷区社会福祉協議会では
地区内の学校やイベントなどからの依頼を受け、
車椅子やアイマスク体験等の福祉学習のお手伝いを行なっています。
福祉学習は、「ふくし」を考えるきっかけの第一歩です。「自分には何ができるだろう」と考え、
実行するきっかけづくりを目的に取り組んでいます。



世田谷区社会福祉協議会とは

地域のみなさんや、福祉施設、ボランティア、民生・児童委員、行政、各関係機関などが参加し、「誰もが暮らしやすいまち世田谷」の実現に向け活動している公共性の高い民間の非営利組織です。まちづくりセンターの管轄地域ごとに全部で29の「地区社協」で活動が行なわれています。